

香芝九条の会 会報

香芝市下田西4-154-1
フレセーヌ香芝2 02 香芝法律事務所
電話 090-1220-7112

9・6 原発老朽
うごかすな!
大集会 in おおさか



8月9日10時半、長崎に原子爆弾が落とされた日を思い出させるようなどても暑い日

8月9日 エコ・ママで訴える

暑い夏、反核平和を

福島事故から10年を迎えるなか、せよとしています。いまだ事故収束が見えず、トリチウムを含む汚染水が福島の海に放出されようとしています。原発不正マネーまみれの関電はその汚れた手で設計寿命40年を超える老朽原発高浜1・2号機、美浜3号機の60年運転の為に急ぎ、今秋以降順次再稼働さ

「9・6老朽原発うごかすな！大集会」へのお誘い

福島事故から10年を迎えるなか、せよとしています。いまだ事故収束が見えず、トリチウムを含む汚染水が福島の海に放出されようとしています。原発不正マネーまみれの関電はその汚れた手で設計寿命40年を超える老朽原発高浜1・2号機、美浜3号機の60年運転の為に急ぎ、今秋以降順次再稼働さ

下にご結集下されれば嬉しいです。コロナ対策を充分整えた体制で行いますが、参加される皆さんにおかれましては、マスク着用等コロナシクお願いします。決してご無理をなさらないように。詳しくは別紙折り込みチラシにて。原発ゼロ-被災者支援奈良のつどい実行委員会」さよなら原発北葛の会) 榎本恭一郎

8月9日10時半、長崎に原子爆弾が落とされた日を思い出させるようなどても暑い日

8月9日10時半、長崎に原子爆弾が落とされた日を思い出させるようなどても暑い日



でしたが、香芝九条の会と新婦人香芝支部・母親連絡会などが協力して、エコールママ連絡橋で、買い物にいられた方々に「核廃絶署名を呼びかけ、同時に赤紙(復刻版)を配りました。

核廃絶署名には、子どもからお年寄りの方までが署名されました。また同時に配った赤紙は「戦争に召集される令状で、これが来たら戦争に行かなければいけない」な

た、長崎の様子が思い出されました。

核兵器禁止条約発効まで批准国が、発効に必要な50ヶ国まであと6ヶ国になりました。しかし唯一の被爆国である日本は批准していません。

広島・長崎の人たちが求める核廃絶に向かって日本が道徳的指導性を世界に示せる日が早く来るように私たちの弛まない運動が求められると思います。なおこの日20名が参加、署名

32筆、チラシを170枚配りました。

(記・中井まさとも)

憲法を逸脱した「敵基地攻撃」論

北東アジアの軍事緊張激化も

“火事場泥棒”も

はなはだしい

自民党が「ミサイル防衛に関する検討チーム」を立ち上げ、敵のミサイル発射拠点などを直接たたく「敵基地攻撃能力」の保有する議論を始めました。

これは政府が、陸上配備型迎撃ミサイルシステム



※防衛省の資料を基に作成

敵基地攻撃能力保有の主な懸念

憲法 専守防衛の趣旨を逸脱する可能性

財政 新たなミサイルの取得などに巨額の費用がかかる

外交 周辺国に脅威を与え、軍拡競争に拍車をかける

シスの断念に上触れた

こうした発言を受け、自民党内では、「敵基地攻撃能力」の保有に関する議論に拍車がかかりました。2020年版防衛白書では「相手から武力攻撃を受けたとき、最初に防衛力を使用する専守防衛が基本政策だ」

ム「イージス・アショア」の配備断念を受け、安全保障戦略を見直し、9月中に方向性をまとめようとしていることに呼応した動きです。陸上イージスの断念に乘じ、憲法をじゅうりんする「敵基地攻撃能力」の保有に踏み出すことは許されません。

安倍晋三首相は6月18日の記者会見で、陸上イ

弾道ミサイルの脅威に対し「抑止力、対処力を強化するため何をすべきか」と述べ、「安全保障戦略のあり方について、この夏、政府の国家安全保障会議で徹底的に議論し、新しい方向性をしっかりと打ち出し、速やかに実行に移していきたい」と表明しました。

前防衛相も「論理の飛躍がある」と批判

としているので岩屋毅・前防衛相は「イージス・アショアの配備が難しいからといって、一足飛びに敵基地攻撃能力の保有を考えるのは論理の飛躍がある」と批判しています。

政府は、「敵基地攻撃」

について日本へのミサイル攻撃を防ぐため「他に手段がない」場合、「法的」には「可能」としてきました。しかし「平時から他国を攻撃する、攻撃的な脅威を与えるような兵器を持っている」とは憲法の趣旨ではない」との見解も示してきました。「専守防衛とは、攻めて来るものはたたくが、こちらが攻め込まない」と、敵基地攻撃能力はそれを超える」と柳沢協二・元官房副長官補は述べています。

敵基地攻撃能力の保有が憲法に反するのは明らかです。

政府はすでに、敵基地をきっぱりと断念すべき

撃を可能にする巡航ミサイルやF35ステルス戦闘機の取得、「いずも」型護衛艦の空母化などをなし崩し的に進めています。

自衛隊OBは、北朝鮮のミサイルに関して車両など移動式発射台を使用し「発射の兆候を事前に把握するのが困難」と指摘しています。巡航ミサイルに加え「発射の兆候をつかむ能力、相手国レーダーの無力化装備など技術的な課題も多い」といい、「敵基地攻撃は不可能」まで言い切っています。核の報復攻撃の危険も指摘しています。

また、「敵基地攻撃能力」の保有は、北東アジアの軍事緊張も激化させます。政府自民党は、きっぱりと断念すべきです。

(文責・吉川)

原爆犠牲者 平和への祈り

被爆二世・中村正樹さんの手記

今日（8月6日）は、NPO法人「平和のための香芝戦争展」が主催する「原爆犠牲者追悼のつどい」に出かけました。「つどい」には香



芝市長も駆けつけ、「恒久平和の運動、いっそう進めていきたいと思います」と激励のあいさつ。ラジオの平和式典実況放送で、投下時間8時15分を合図に黙祷して原爆犠牲者への追悼を行いました。

その後、ヒバクシヤ国際署名推進奈良県民の会事務局として紹介された私が、ヒバクシヤ国際署名をひろげ、核兵器のない平和な社会を子々孫々に確実に手渡ししようと呼びかけました。いったん自宅に帰って、妻と一緒に奈良市の般若寺へ。ここには「平和の塔」があり、平和の火が灯されています。

広島で被爆した深町さん（88歳）

般若寺平和の塔のつどい

「原爆の火」

をともし続ける「平和の塔」がある奈良市の般若寺では、「原爆犠牲者追悼・般若寺平和の塔

13歳の頃に広島市で被爆した奈良

は不自由な身体を押して参加していただきました。あいさつの中で、「二度と原子爆弾、核兵器を使わせはならない。廃絶しかない！私が生きてる間は核兵器はなくならないだろう。しかし、若い人たちがこの思いを受け継ぎ、廃止のために頑張ってください」と訴えられました。そして8月6日、広島に原爆が落とされたこの日、平和の願いをこめて、参加者一人一人が梵鐘を響かせました。帰路の途中で最後に立ち寄ったのは、田原本町の青垣生涯学習センター。ここでは8月1日から8月31日まで原爆写真展と国際署名のコーナーを設置しているのでその状況を見てください。署名入れのボックスには署名済みの用紙が入っている・・・あーうれしいー！しかし、忙しかった一日でした。

「2区市民連合」発足
8月23日
大和郡山市
で、「2区市民連合」が発足しました。市民と野党の共同で過去選挙を戦ってきました。
これまでの共同では、「持てる力の半分くらいしか出し切れなかった」との反省があります。今回は初めから共通目標を確認して、その実現のために全力で頑張ろうという選挙になります。持てる力の何倍もの力がわきます。
2区の現職は安倍政権の中枢を担ってきた高市早苗さんです。現在名乗りを上げているは宮本次郎さん、いおく美里さん。2人とも若くて実力のある人です。会場からは早く候補者を一本化して勝ち抜く選挙をしたいという声が上がっていました。



県下では、3区の「市民連合」がすでに発足しています。奈良1区の市民連合、9月19日に結成総会を開きます。



かしば市民が語る
憲法九条とわたし

協力した
自らの無
知を後悔
した。

戦争の加害者になる
怖さを知る事の大切さ

岩井奉子
(逢坂)

「二度と戦争はしない」と心に誓った。
平和と民主主義の願いは、新しい日本国憲法となり、戦後を生きる日本国民の希望となった。これは定年後大学の史学科に学び、日本史近現代を

専攻し「アジア、太平洋戦争と国民戦争責任と」のように向き合ったか」をテーマにした卒論の一節である。
戦後私たちは、空襲や被爆など被害の悲惨さから戦争を否定

いう一語で語られ、何も知らされず、自らが日本帝国を支えた父母をもつ加害者の子孫であることに無自覚のまま過ごした。
今も徴用工問題などアジア各地からの戦争被害者による賠償裁判は、戦後一貫して侵略による加害の事実を認めず、謝罪と償いを避け続けた日本の「戦後」そのものにあ

る。
私たち一人一人がアジア太平洋戦争に対して、事実にもとずく歴史認識をもつ努力と、改めて「戦後史」を問い直し、アジアの人々と共通した歴史認識をつくりあげることが、真に平和な世界の実現に何より大切なことだと考えている。

1945年8月15日は日本帝国が引き起こした15年におよぶアジア太平洋戦争の終結の日である。アジアの2000万人の人々、310万人の日本人の命が奪われ、莫大な戦費と空襲や被爆の惨禍に見舞われ、国富のほとんどもを失った。

敗戦直後の国民は夥しい死者の記憶と焦土に立ち、軍国主義、ファシズムの暴圧に屈して戦争に

コロナの先が見えない時こそ、
憲法を生かした政治を

森中千鶴子
(真美ヶ丘)

3密、マスク、自粛生活の日常で行動が規制も

多くテレビの前にすわり
ます。

「新型コロナウイルス感染拡大で社会のあり方が問われる」この話題のつめこみです。こんな大変なときに国会は閉じられていて。医療、子供の学校、働き方と不安ばかりです。

戦後生まれの私も定年を迎え10余年が過ぎました。

私は新しい憲法のもとで女性の自立、人間の自立を求めて働き、子供を

育てをした時代でした。
でも「今政治はどうなっているの」と考えます。

私の父は戦争で南京に戦死しました。32才で征しその内2人戦死です。その後の祖母のくり返すなげきは幼な心にも悲しみでいっぱいでした。

「なぜ戦争への道を日本は歩んだろうか」と何時もこころの中で考えて生きてきた。

戦争で300万人の尊い命を奪い、戦後の混乱

期を必死で生きてきて、
平和な生活を築き上げつつある今日、戦争への道を進めようとする動きを感じます。

黙って見てはいけません。二度と過ちをくり返してはならないと、戦争を体験した私たちの次の世代に継ぐことが大切です。憲法九条、二五条は暮らしの中で守られるべきなかみです。憲法を生かした政治をコロナの

先の見えないときだからこそ望んでいます。